

# 山岳友の会会報

2019年10月 第35号



撮影：荻野 秀夫

## も く じ

|                  |     |        |   |
|------------------|-----|--------|---|
| 第25回上高地談話会       | 報告  | 西村 基志  | 2 |
| 2019上高地キッズデイキャンプ | 報告1 | 塩沢 乃武行 | 2 |
|                  | 報告2 | 小林 久雄  | 3 |
| 第43回現地研修会（早池峰山）  | 報告2 | 渡邊 修   | 3 |

## 第 25 回上高地談話会（第 8 回涸沢談話会） 報告

西村 基志

第 25 回上高地談話会（第 8 回涸沢談話会）が 2019 年 7 月 11－12 日に渡り、涸沢ヒュッテで開催されました。今回は 3 年ぶりの開催とあって、長野県内のみならず関東や関西からの参加者もあり、総勢 23 名が集う盛会となりました。

1 日目は午前から雨が降り、あいにくの天気となりました。また、例年よりも雪が多かったらしく、ヒュッテの手前は雪の上を歩く形となりました。それでも参加者の皆さんは続々とヒュッテに到着し、お昼ごろには多くの人が既に到着されていました。濡れた体を拭きつつ登山後の一杯に談笑も交え、西穂山荘支配人である栗澤徹さんによる講演会を心待ちにしている様子でした。



栗澤さんの講演会のテーマは「滝雲と雲海」。実際の雲海や滝雲を映した写真や映像を交えつつ、雲海や滝雲が形成されやすい気象条件や地理条件などについてのお話を伺いました。西穂山荘で働くスタッフでもあり、気象予報士の資格もお持ちである栗澤さんのお話は、実際起こった現象を裏付ける理論的な根拠があり、非常に興味深いものでありました。難しい気象の知識をかみ砕いて分かりやすく説明してくださり、みなさんも熱心に聞いておられました。

講演会の後は、みなさんお待ちかね？の懇親会です。今年は悪天が続き、ヘリによる物資輸送も思うようにいかない状況のようでしたが、美味しい食事と飲み物を用意していただいた涸沢ヒュッテの方々、ありがとうございました。懇親会では、各地から集まったみなさんの自己紹介や、気心知れた登山仲間の昔話など、各々談笑を交え楽しんでおられる様子でした。



講演会の後は、みなさんお待ちかね？の懇親会です。今年は悪天が続き、ヘリによる物資輸送も思うようにいかない状況のようでしたが、美味しい食事と飲み物を用意していただいた涸沢ヒュッテの方々、ありがとうございました。懇親会では、各地から集まったみなさんの自己紹介や、気心知れた登山仲間の昔話など、各々談笑を交え楽しんでおられる様子でした。



2 日目も朝は雨が降っておりましたが、次第に弱まってきました。経験豊富なみなさんは、空模様や雨雲の動きを見て雨が止むのを待ってから出発されている方が多かったように思います。徐々にみなさん下山され、昨晩はとても賑わっていた涸沢ヒュッテも少し静かな時間帯になりました。昨晩の盛り上がりから一変したヒュッテに残っていた私は、寂しさも感じつつ、下山の途につきました。

今回は、私自身初めての談話会参加となりましたが、山の人は寛容で気さくな方ばかりでとても楽しむことが出来ました。絶好の天気とはなりませんでしたが、悪天などで中止となった去年と一昨年のリベンジが今回で果たせたようで、みなさん嬉しそうでした。私もまた機会があれば参加したいと思います。

【写真：荻野 秀夫】

## デイキャンプにスタッフ参加して —2019 上高地キッズデイキャンプ 報告 1— 塩沢 乃武行

小学生とふれあいの機会を持てた事は、何年ぶりの事だったのだろうか。





穂高、常念、蝶の3班に別れ、小林さんと塩沢の2名で4年生 3名、5・6年生それぞれ2名、計7名(女子3名・男子4名)の穂高班を担当しました。

上高地バスターミナル(BT) ～ ウェストン碑 ～ 小梨平 ～ 上高地ステーション〔昼食・フルーツポンチ作り・スイカ割り〕～ 岳沢湿原 ～ 河童橋 ～ ビジターセンター ～ 上高地 BT のコースをたどり、ウェストン碑前の小川の魚(岩魚の稚魚)を見、冷たい清水川に手を入れ、トリカブトを見、コマドリのさえずりに迎えられ、蝦夷柳の猿の食跡を見、各班オリジナルフルーツポンチを味見、スイカ割りの応援に興奮、小さなトカゲを皆で追いかけ、大きな『根上の木』から顔を出し、火山の灰から出来た石〔凝灰岩(ギョウカイガン)〕に触れ、岩魚の反応を観察、ゴリラの顔した岩を見、奥穂高岳の山頂を確認、仲良しの木を見、清水川の冷たい水で顔を洗ってバスに乗って上高地のデイキャンプはおしまい。

ゲームソフトに夢中世代でなかなか外で活動しない子供さん達とっていましたが、活発に行動してまだまだ元気な子達がいることにびっくり、頼もしくも思いました。

観て触れて、右脳を心地好く刺激できたのではないのでしょうか、初めての参加ではありましたが来年も参加できれば、事前の準備から対応してみたいと思います。事前の準備から対応された皆さまお疲れさまでした。

【写真：荻野 秀夫】

## 2019 上高地キッズデイキャンプ 報告2

小林 久雄

暑い日が続く中天候が心配されましたが無事に出てホッとしています。

スタッフは年々年を重ねて体力・気力ともに衰える中奮闘しました。

急な暑さで体調不良の方が3名直前に参加出来ない事になりましたが、17名が元気に上高地・田代橋・ウェストン碑・河童橋・清水橋と巡り明神のステーションまで暑い日差しの中を頑張りました。



ベンチで休憩後に各自お昼ご飯、さらにフルーツポンチ作りにスイカ割りと愉しく出来ました。味見しながら初めてのフルーツポンチ作りが出来たらもっと良かったとおもいましたが、美味しくいただけよかったです。

少し怪しい雲行きに帰り道は木道をすこおしだけ急いで戻りましたね。

上高地の自然を満喫の一日になってとっても嬉しく思いました。参加された方々に感謝しています。

【写真：荻野 秀夫】

## 第43回現地研修会「早池峰登山と宮澤賢治、松島の旅」

### —第43回現地研修会(早池峰山)報告 その2—

時代は平成から令和へと遷り、輝かしい2019年令和元年の記念すべき年のメインイベントとなる第43回現地研修会「早池峰登山と宮澤賢治、松島の旅」が、梅雨真只中の6月20日

(木)～22日(土)迄の2泊3日の行程で開催されました。

参加者は若干少なめの総勢17名(女性4名、男性13名)となりました。

今回の現地研修も最遠路からの参加者は昨年の利尻・礼文同様に岡山県からの大江さんでした。今回参加者の最高齢でもあり遠路からの参加誠に疲れ様でした。

初日:6月20日(木)

松本市旭の信州大学を定刻どおり6時ジャストに出発し、JR松本駅アルプス口へ向かい山口会長外7名をピックアップ、松本ICから長野自動車道を北上し上信越自動車道東部湯ノ丸SAの最終乗車地へ向かいます。バスの中は既に楽しい宴が始まっています。あっという間にバスは東部湯の丸SAに到着。今か今かと首を長くして待ちわびていた、堀内、中嶋、相澤さんの3名が乗車し、花巻で合流する大江さん以外の参加者全員が揃いました。バスはこれから上信越自動車道～東北自動車道をひたすら北上し岩手県花巻市を目指します。



会長の挨拶後は昨年度末に会員となられ今回初参加となった中嶋豊さんが加わったことで例年になく早いペースで和やかで楽しい宴がつづきました。

会員の皆さんはご存じの方も多いかと思いますが、中嶋豊さんは長野県警察山岳救助隊員、機動隊、航空隊でレスキューを担当し長野県警山岳遭難救助隊第9代隊長として大勢の人命救助に活躍された方です。また、近年多くの登山愛好家から絶賛されているカラートレッキングマップ「信州の山歩き地図」の著者でもあります。山のエキスパートである中嶋さんの入会は「山岳友の会」にとって大変心強く、また喜ばしい事です。

そろそろお腹も減り途中、那須野高原SA?(酔っていたので定かではありませんが……!)で昼食です。夜の大宴会を考慮し各自で麺類などの軽めの食事を取り花巻市の宮沢賢治記念館に向かいました。途中では青空も見えますが梅雨真只中、時折強い雨も降っていますが、バスでの移動中であり全く問題はありません。そうです!明日の早池峰登山が雨降りであれば大丈夫です!

松本市を出て600kmを優に超える距離を移動すること凡そ9時間、漸く今回の研修旅行の冠にもなっている宮沢賢治記念館に到着しました。既に皆さんかなりのアルコール(ビール、ワイン、日本酒)も入り、何時もより更に饒舌でかなりご機嫌の様子でした。

宮沢賢治記念館は昭和57年(1982年)に賢治ゆかりの地、岩手県花巻市胡四王山に開館しました。平成27年にはリニューアルされ、詩や童話、農業、科学など多彩なジャンルに及ぶ宮沢賢治の世界と出会いの施設となっています。



車止めを少し進むと【よだかの星彫刻碑】が来場者を誘い更に奥へと進みエントランスには宮沢賢治ゆかりの深紅のばら「グルス・アン・テブリッジ(和名:日光)」が迎えてくれました。

常設展示では科学、芸術、宇宙(そら)、宗教(祈)、農の5つの分野ごとに大型スクリーンをはじめ多彩なグラフィックで紹介し、作品原稿や愛用のチェロなども展示されていました。

中でも印象的だったのは昭和6年11月3日病床の賢治が書き死後に発見された「雨ニモマケズ」でした。多くの方が複製された物を購入されていました。

残念ながら館内は撮影が禁止されているので写真はありませんが一度は訪れて見ては如何でしょうか?きっと宮沢賢治が見た「まことの世界」イーハートーブの心象世界に触れること



ができることと思います。

映像や展示物など1時間程熱心に見学しイーハートープの心象世界に浸り余韻を残しつつバスへ戻ると見学もそこに終え「山猫軒」(駐車場脇にある飲食施設)で地ビールを飲んでいたKさんTさんは既に「呂律」が回らぬ程の酔い様です。特にKさんはひどい……！この調子で夕食(懇親会)は大丈夫なのでしょうか？「何時ものことか。」と思

つつも今日はちょっと心配です。

記念撮影を終え、バスは本日の宿泊地である花巻温泉へと向かいました。

暫くすると花巻温泉へ到着。花巻温泉は大自然に包まれ歓楽的な雰囲気漂う大ホテルです。本日の宿は「ホテル紅葉館」「ホテル花巻」「ホテル千秋閣」の三つの内の一つ「花巻ホテル」。コンセプトは「山懐に抱かれる静かな空間、開放感のあるひのき露天風呂の宿」です。何とも格好良い！

予め部屋割りされている493号室(鈴木、相澤、渡邊)へ移動し、早速今日の疲れを癒やしに温泉へ。隣接するホテル「紅葉館」、「千秋閣」の大浴場や露天風呂も自由に利用できるので3つの温泉の湯巡りをするのも楽しみの一つです。待てよ……！ホテルは接続しているので源泉は一緒でしょう！懇親会まで時間が無いので今回は宿泊ホテルの花巻の湯で今日一日の疲れをとりました。サウナは寝る前にしよう！

宴会はバイキングもあるそうですが今回は何時も通りの宴会に。今日一日の反省と明日登る早池峰山の話、また、今回初参加の中嶋さんからの様々な話で大いに盛り上がりました。

部屋割りにも恵まれ軒に悩まされること無く無事就寝となりました。(勿論、携行した耳栓は使用しませんでした。感謝！感謝！)



2日目:6月21日(金)なんと！今日は小職の誕生日です！！

昨夜は早くからの就寝となり軒に悩まされること無く熟睡できたので、普段通り5時前には起床。朝から快適です。毎回こうであると良いのですが……！

早速、昨夜入れなかった残り二つの湯を巡りました。やはり源泉が一緒のせいか何処の温泉も湯質の違いは感じられませんでした。登山の際には朝の入浴は疲れるので入らないと云う方々もおられますが小職は確り入浴して登山に備えます。

朝食会場へ向かうとエレベーターの降り口から、おじいさん、おばあさんの長蛇の列ができています。やはり年配の方々朝が早そうです。暫く待っていましたが定刻になっても中々入場ができません。何処からとなく「今、テレビの取材撮影が行われているので今暫くお待ち下さい。」とのこと。

間もなくして朝食会場の扉が開き中から赤色のジャージ姿の女性芸能人が出て来ました。その後も次々に女性が出てきて最後に唯一名前を知っている「いとう あさこ」が愛嬌を振りまきながら行列の人混みをかき分けエレベーターに乗り込んで行きました。

小職はテレビが無いので解りませんが……！後に判明しましたが、TSBで日曜日20時から放送している「世界の果てまでいってQ」と云う番組だそうです。皆さんはご存知でしょうか？

朝食はバイキング。これでもか！と云うくらい品数も多く所狭しと並んでいます。勿論、頑張っても全ては食べられそうにありません。オムレツはコックさんが目の前で一人分ずつ焼いてくれています。何れも美味しそうで目移りがしてしまいますが、色々な食べ物を出来る限り盛り付け美味しくいただきました。(勿論、完食できる範囲ですよ！)これから早池峰山へ登るため

にも確り朝食は食べておくことが大切です。何故か今回は珍しく飲酒は控えました。何しろお  
かずが多いだけにちょっと寂しい気もしますが……！でも今日のところは我慢！我慢！



朝食を十分堪能し身支度を整え、ホテルを出発。女性陣からホテル脇のパン屋さん「温泉ベーカリー」が美味しいとの評判で 50mも進まないうちにバスを止めパンを購入、会長から全員に粒あんがぎっしり詰まった第一人気の「花巻温泉あんぱん」をご馳走になりました。バスは一路早池峰山へと向かいます。途中コンビニ大手の：〇11 に立ち寄り昼食のおにぎり等を買って求めるも既にほぼ完売の状況で、やむを得なくパンやゼリー携行食、

飲み物類を購入し登山口の小田越までバスで移動しました。

通常、早池峰山への登山ルートは 2 ルートあり、1. 河原坊からの直登ルート

2. 小田越(1,240m)から尾根伝いに頂上を目指し、下山は河原坊へ下るコース。

今年はどうやら2の小田越コースのみと言うことでした。こちらのコースは直登より登山路も整備されているので危険も少ないようです。

今日は小田越から頂上へ登り同じ道に戻るコースです。

早池峰山は岩手県にある標高 1,917mの山で北上山地の最高峰で日本百名山また、花の百名山です。山頂は宮古市、遠野市、花巻市の境界となっています。「ハヤチネウスユキソウ」で知られる名峰で、豊富な高山植物が人気で一般の観光客も多くの人が入山している山です。

「ハヤチネウスユキソウ」はスイスアルプスのエーデルワイスに最も近い品種と言われていることから大勢の観光客がハヤチネウスユキソウを見に来ている様です。

ウスユキソウは昨年(2019年)の第37回研修旅行で訪れた利尻・礼文の「エゾウスユキソウ(レブンウスユキソウ)」、北海道大平山、夕張山地の岨山(きりぎしやま)の「オオヒラウスユキソウ」、早池峰山の「ハヤチネウスユキソウ」、中央アルプス駒ヶ岳、空木岳等に生育する「ヒメウスユキソウ(コマウスユキソウ)」があります。

蛇足になりますが、上伊那郡宮田村の特別シンボルには「コマウスユキソウ」が指定されています。

昨年、8月11～12日宮田村でコマウスユキソウ特別シンボル 20周年記念「ウスユキソウサミット in 宮田」が開催され、北海道島牧村村長、岩手県花巻市大迫総合支所長、地元宮田村村長等が出席し長野県環境保全研究所の尾関雅章氏の基調講演、パネルディスカッション、千畳敷～極楽平の現地調査が行われ小職も出席しました。ですから「ウスユキソウ」には多少興味がありましたし、昨年の「レブンウスユキソウ」、「ヒメウスユキソウ」そして今回「ハヤチネウスユキソウ」と日本を代表する三大ウスユキソウを見られることから期待は高まります。



本日のルートである小田越へバスが到着するとトイレを済ませ、久雄さんに併せて恒例の準備体操を入念？に行い登山前の記念撮影。東北地方も梅雨入りはしているものの青空が見え山頂も見えています。何とか天気も下山の 3 時頃までは持つことを願いつつ順次出発となりました。

コースタイムは 2 時間 30 分、おそらくせつち組は 1 時間台で山頂へ到着かな？

暫く平坦な樹林帯の木道を歩いて行くと今度は岩場になりました。花の百名山と聞いていたのでこれほどの岩場とは想像していませんでした。花の開花時期にはまだ早すぎるのでは？と思いきや…！予想以上に多くの花が咲いていました。

またと無いチャンスと思い「高山植物等保護対策協議会の啓発用ポスター」に使用できる写真を撮りながらゆっくり登って行きましたが、中々思うような写真が撮影出来ませんでした。やっぱり腕のせいだな！せっかち組は花を愛でることなく？足早に山頂を目指し登って行きます。相変わらず早い！「前に人がいたら抜く、抜け！」のポリシーかな？

岩場を暫く歩いて行くと可憐な「ハヤチネウスユキソウ」が数輪咲いているのを見つけました。少し時間をかけて撮影したのですが中々思うような写真が撮影出来ずにメンバーに場所を知らせて山頂を目指しました。その後も何カ所かで開花しているハヤチネウスユキソウを見ることができました。

中嶋さんもポイントポイントで花や登山道、山の風景の写真撮影と山歩き地図作成のためメモをしながら足早に追い越して行きました。気がつけば女性陣と最後尾の様です。暫く岩場を登って行くと梯子場に到着。何と！先に登っていたはずのTさん(男性)が梯子を登り切って休憩して居るではありませんか！素晴らしい！立派です！高所恐怖症を克服したんだ！本当に立派だ！高所恐怖症で梯子、鎖場が大の苦手のTさん！思えば一昨年の第32回現地研修「東北出羽三山の山旅」で湯殿山からの下山時の梯子場でTさん(女性)から梯子を降りる際に「子鹿のバンビが生後立つ時の様に震えていた！」とさんざんかまわれていました。次の第33回「焼岳中尾峠を巡り上高地・焼岳を学ぶ」現地研修会では梯子場から引き返したTさん！本当に立派で頭が下がります！



大江さんが少し遅れて梯子場の下方で休憩していたのでTさんと女性陣に先に行ってもらおうこととし、梯子場を一端降りて大江さんを迎えに戻りました。

大江さんは「ちょっと咳が出始めたんよ！一枚羽織ってゆっくり歩いたらなあ山頂は大丈夫だわあ！」とのことでしたので防寒対策を施してからゆっくりとマイペースで慌てずに一緒に登って行きました。梯子場を登り稜線に出てなだらかな尾根沿いで下山してくる田下さんに会いました。どうやら足の状態が悪いので一足先に下山することです。ここからは10～15分程度とのことで、山頂を目指します。山頂直前の雪渓で大江さんに先に行ってもらい、リックから素早く缶ビールを取り出し雪渓に埋め高速回転で冷やすこと2～3分。キンキンに冷えたところで缶ビールを片手に避難小屋横の最後の階段を登り山頂に到着！ゆっくり登れたので初めて汗もかかない山登りとなりました。毎回こんな感じだと楽だろうな！大江さん一緒に登ってくれて有難う！せっかち組に遅れること小一時間？もっと掛かったのかな？皆さん既に昼食も終え随分待ちくたびれていました。冷たい風も吹き始めてきました。もしや…！雨が降り出すのかな？一息つく間もなく早速、何枚か記念撮影。一足先に下山された田下さん！集合写真に写れず大変申し訳ないことをしました。ご勘弁を！



取り敢えずビールで乾杯！最高に旨い！皆さんにも分けてあっという間に500mlが空に…！天気の良いうちに写真撮影を済ませ軽く昼食。先発隊は待ち時間が長すぎて体が冷え切ってしまった様子で早々に下山となりました。昼食を終える頃には山頂下にもガスが掛かりはじめたので下山することになりました。山頂滞在時間僅か30分程で下山することになりました。



下りも先後尾で慎重にゆっくりとマイペースで大江さんと岡山、ご家族等の話しをしながら下山してきました。途中、梯子場でパトロールの職員に会い、安全に下山する様アドバイスを受けました。パトロールの職員は梯子場のロープ片手に前向きでトントンと軽快に降りて行きました。いやはや……！これは前向き人生だ！小職も前向きで……！とは思いましたが……落ちたら皆さんに迷惑が掛かるので安全に後ろ向きで降りました。

お陰様で天候に恵まれ雨に降られることなく3時40分(予定時刻を40分オーバー)に小田越に無事下山となりました。後から聞きましたが、せっかち組は1時間ちょっとで下山された様でした。バスは予定時刻をオーバーしたので一端河原坊駐車場に戻り再度迎えに来てくれるとのことで程なくしてバスが到着しました。雨にも降られることなく天候に恵まれまた、怪我もなく全員無事に登頂、下山出来たことに感謝し冷えたビール&ワインで乾杯となりました。登山後の冷えたビール&ワインが五臓六腑に染みわたります。正に至福の時！もう～最高！

途中、閉店間際？の大きな葡萄が目印の道の駅「早池峰」でトイレ休憩とお土産タイム。駅長？自身が葡萄を栽培し醸造していると言うお勧めの村喜本店の「赤ワイン」、早池峰の名産等のお土産を大勢の方が購入しました。「友の会」のおかげできっと本日の売上金額は間違えなく達成したことでしょうね！



明日以降もお友達と山に登られる大江さんが花巻温泉駅で降車し見送り、本日のお宿である宮城県松島の「松島温泉 ホテル壮観」を目指しました。時折強い雨が降る中予定より遅れて「ホテル壮観」に到着、男性、女性の部屋が違うと言うバタバタがありましたが、「鳥の行水」の如く早々に温泉を済ませてから宴会となりました。

6月21日は小職の58歳の誕生日です。

宴会に先立ち会長からお祝いの言葉があり、「ケーキはないけど……！」との前置きの後皆で♪♪ Happy birthday to you ~ Happy birthday to you ~ Happy birthday Dear なべちゃん Happy birthday to you ♪♪と Happy birthday to you を大合唱していただき、ワインで乾杯となり、その後も皆さんから暖かい祝福を受けました。誕生日にこうして「山岳友の会」の皆さんと現地研修会に来ているのもきっとご縁と感謝しています。その後も宴会は楽しく続き、部屋に戻ってから皆さんにお祝いをしていただき、遅くまで随分飲んでしまいました。

3日目最終日:6月22日(土)

昨日、誕生日祝いで遅くまで随分飲んだせいか何時もよりちょっと遅めの5時45分に起床。外を見ると……！残念ながら小雨が降っている生憎の天気。松島遊覧時だけでも晴れてくれないかな！早速温泉へ。昨日は到着時間が遅れ温泉にゆっくり入れなかったのが今日は時間をかけてゆっくりと。

朝食は前日同様にバイキングでした。こちらの「松島ホテル 壮観」も「花巻ホテル」に負けず劣らずの豪勢な料理の品揃えで堪能させていただきました。あっ！今日もアルコールを飲むのを忘れていました！！まっ！いいか！！

朝食後身支度を整え部屋の最終確認を終え8時30分ホテルを出発し、松島湾の遊覧へと向かいました。僅か5~6分で駐車場へ到着。心配していた天気も雨は上がり青空になりお日様も確りと顔を出し汗ばむ陽気となりました。昨日の早池峰山に続き今日も雨に降られま



せん！誰かもっているのかなあ～！それにしても有難いことです。

小職、松島は、3回目になります。松島は松島湾内外にある諸島のことまたは、それら諸島と湾周囲を囲む松島丘陵も含めた修景地区のことで、日本三景の一つ「松島」の観光拠点として知られています。(因みに日本三景とは、1. 宮城県：松島、2. 京都府：天橋立、3. 広島県：宮島(厳島))皆さん知っておられますよね！

残念ながら天橋立にはまだ行ったことがないので機会をみて単車で行ってみようと思っていますが……！実現は何時になるやら……！

2011年(平成23年3月11日)に発生した東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)死者、行方不明者は1万8千人を超え、被害額は16～25兆円。世界銀行の推計では自然災害による経済損失額としては史上1位とされています。

太平洋側は軒並み大きな被害を受けたのに松島は260余りの島に守られ(消波ブロックの役目)奇跡的に大きな被害を免れたとされています。

「松島や ああ松島や 松島や」これは俳人松尾芭蕉の句ではなく相模(神奈川県)の田原坊の作とされています。因みに松尾芭蕉は「島々や 千々にくだきて 夏の海」と言う句を詠んでいます。



雨上がり後の蒸し暑い中を駐車場から遊覧船乗り場へと移動しました。遊覧船は仁王丸、第三仁王丸、マリナーの三船があり、今日乗船するのは第三仁王丸。松島湾内の17kmのコースを約50分かけて周遊しました。過去には鷗に餌を与えることができましたが、湾内の松が鷗の糞等により松枯れの進行がかなり進んでいることから

松枯れ防止対策の観点から、平成26年4月から「鷗の餌付け」が禁止になった様です。野鳥(烏、鶺鴒、鷺、椋鳥等)の糞害は今、全国各地で社会問題となっています。

乗船後は皆さんかなりお疲れの様子と見えて、景色もそこそこに遊覧船の心地良い揺れと暖かい日射しに誘われ睡魔に襲われ、確りお眠りをしている方が多くみられました。

遊覧を終えてから国宝の瑞巖寺に向かいましたが、時間が無いので入り口で引き返し、参道や松島湾の前のお土産店で松島名物「笹蒲鉾」等のお土産を買いバスに戻りました。残念ながら、瑞巖寺の境外仏堂である国重要文化財の五大堂は見られず終いとなりました。個人的には2回も観ているからまあ良いか！

出発してから間もなく会長から「笹蒲鉾」の差し入れがありました。昨日の「あんパン」に引き続きご馳走様でした。美味しい「笹蒲鉾」を摘まみに更にアルコールが進んだことは言うまでもありません。

途中？SAで昼食を取り東北自動車道→北関東自動車道→上信越自動車道→長野自動車道と南下しました。時折激しい雨がバスの窓を叩きつけました。5時過ぎ？に東部湯の丸SAへ到着し、堀内、中嶋、相澤の3名が下車し6時過ぎ？に無事に松本市へ到着となりました。

参加されました皆さん！2泊3日の長距離の現地研修会大変お疲れ様でした。

レポーター：ペンネーム：瀬祭036(DASSAI036)ことドラエモン

信州大学山岳友の会会報 第35号

発行日：2019年10月10日 発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学山岳友の会事務局

TEL：0263-37-3332 FAX：0263-37-2438 E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp